がん体験者の思い、地域に発信

やまもと・ゆき　1951年、湯沢市生まれ。がん対策基本法、自殺対策基本法の成立に尽力した故山本孝史参院議員（当時）の妻。県内での教師、NHK・BS放送等で朝訳の仕事に従事。夫の闘病を綴ぎ「山本孝史のいのちのバトン」を立ち上げ、来年6月にNHKホールで、「いのちのフォーラム」を開催する。著書に「天のランドセル～いのちの政治家 山本孝史物語」。

10月9日秋田市でがん患者大集会

「がん患者大集会」が県方都市としては初めて秋田市で開かれる。開催の狙いは。

山本　念頭にあるのは秋田県のがん死」率が全国ワーストの高止まりの状態にあること。秋田開催を通じ、都市部と地方の医療格差や、均てん化」どこでも同じ質の医療を受けられるが進んでいないという問題についても専門家にお話をいただきました。

本年の第12回がん患者大集会は、秋田県にて開催いたします。「がん、新時代を生きる」のテーマの下、秋田県の患者さんとその家族、医療者の皆さんに加え、支援者の方々に日頃の活動・試みを発表していただき、患者・家族・支援者・医療従事者が相互に親睦・連携を図り、すべてのがん患者にとって納得できる治療環境とは何かを考える「第12回がん患者大集会」（NPO法人がん患者団体支援機構、大集会実行委員会主催）が10月9日、秋田市の県労働金庫で開かれる。がん対策基本法成立から前日の10年となる今年は「がん、新時代を生きる」がメインテーマ。成立に尽力した故山本孝史参院議員（当時）の妻で、同NPO副理事長の山本ゆきさん（65）＝大阪市在住、湯沢市出身＝に、初の地方開催となる秋田大会の意義などについて聞いた。

「声なき声すくい上げたい」

「ふたつば」の代表や、「がんカフェを立ち上げた能代市の夫婦らが活動事例を報告する。高齢化が進み、がんは特に病気ではなくなった。いずれの報告も、自分ががんになったとき出てこない人にこそ足を運んでもらたい。

今年はがん対策基本法が成立して10年の節目だ。患者やサバイバーを取り巻く社会環境はこの10年でどう変わったか。

山本　医療の進歩で生存率は確実に伸び、それに伴い、がん対策はサバイバーの生活の質向上に目が向けられてきた。一方で、がん難民（病院から見放され、ほかの治療法を求めてさまよう患者たちは現に存在する。地域によっては専門の医療者不足から標準治療さえ行われていないというデータもある。基本法はがん難民の思いに応えようと制定された。その原点を忘れてはならない。

患者のニーズや悩みは変化しているか。

山本　サバイバーの声が大きくなったのと対照的に、「悩みを打ち明けられない」という人が相変わらず少なくない。とりわけ秋田のような比較的人間関係が濃密な地域では、自分ががんだと言い出しにくい人が多いといわれる。声なき声をすくい上げるため気だし、治療がずっと続くわけではない。時間帯や曜日など、本人に合った無理のないシフトを組むことを考えてみてほしい。がん対策は地域づくりでもある。治療で経済的に困窮していることも考えなければ、行政が援助するということを考えても、秋田はあれば職を失う。若くしてがんになって、定期間安心して治療に専念できる。そんな仕組みができれば、秋田にとってまちづくりの目玉になるのではないか。

がんを経験した現役世代の3人に1人は、何らかの理由で就労の機会を失っているのが実態だ。

山本　依願退職する人の多くは、会社に居づらくなって退職に追い込まれる。がん患者と家族、支援者、医療従事者が相互に親睦・連携を図り、すべてのがん患者にとって納得できる治療環境とは何かを考える「第12回がん患者大集会」（NPO法人がん患者団体支援機構、大集会実行委員会主催）が10月9日、秋田市の県労働金庫で開かれる。がん対策基本法成立から前日の10年となる今年は「がん、新時代を生きる」がメインテーマ。成立に尽力した故山本孝史参院議員（当時）の妻で、同NPO副理事長の山本ゆきさん（65）＝大阪市在住、湯沢市出身＝に、初の地方開催となる秋田大会の意義などについて聞いた。

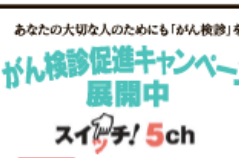
大集会で何を伝えたいと考えているか。

山本　プログラムで象徴的なのは、乳がん体験者による報告だ。登壇するのは、自分ががん体験者であることを公言し、予防や検診の重要性を啓発する活動をしている方、治療中の患者や、治療を終えたいわゆる「がんサバイバー」にとって、自分ががんを体験したことを打ち明けづらいという雰囲気は、地方ほど根強いといわれる。がん体験者が元気に生活していることを、地域社会に伝えたい。ほかにも、秋田発の全国組織である胸腺腫・胸腺がん患者会「ふたつば」の代表や、「がん難民」の治療法を求めてさまよう患者たちは現に存在する。地域によっては専門の医療者不足から標準治療さえ行われていないというデータもある。基本法はがん難民の思いに応えようと制定された。その原点を忘れてはならない。

患者のニーズや悩みは変化しているか。

山本　サバイバーの声が大きくなったのと対照的に、「悩みを打ち明けられない」という人が相変わらず少なくない。とりわけ秋田のような比較的人間関係が濃密な地域では、自分ががんだと言い出しにくい人が多いといわれる。声なき声をすくい上げるため気だし、治療がずっと続くわけではない。時間帯や曜日など、本人に合った無理のないシフトを組むことを考えてみてほしい。がん対策は地域づくりでもある。治療で経済的に困窮している人には、行政が援助するということを考えても、秋田はあれば職を失う。若くしてがんになって、定期間安心して治療に専念できる。そんな仕組みができれば、秋田にとってまちづくりの目玉になるのではないか。

告されても辞める必要はない。同時に雇用主もがんを正しく理解する必要がある。治療と治療の合間は元気だし、治療がずっと続くわけではない。時間帯や曜日など、本人に合った無理のないシフトを組むことを考えてみてほしい。がん対策は地域づくりでもある。治療で経済的に困窮していることも考えなければ、行政が援助するということを考えても、秋田はあれば職を失う。若くしてがんになって、定期間安心して治療に専念できる。そんな仕組みができれば、秋田にとってまちづくりの目玉になるのではないか。



仕事を持ちながらがん治療で通院している人

男性新生物の治療のため、仕事を持ちながら通院している者は32.5万人いる

NPO法人
がん患者団体支援機構 理事長
浜中 和子さん

第12回がん患者大集会へ向け

特定非営利活動法人がん患者団体支援機構は、2005年以来、毎年、がん患者大集会を開催し、日本のがん医療への提言を続けてまいりました。

第1回大集会は大阪NHKホールで開催され、翌2006年6月ののがん対策基本法制定に大きな役割を果たしました。そのがん対策基本法も今年で制定から10年を迎えました。

昨年の第11回がん患者大集会では、「いのちに希望を」－part2－がん対策基本法改正に向けてを テーマに、患者・家族、医療関係者から集めたがん対策基本法改正への意見発表を行いました。また、先端医療と呼ばれる最新の治療法の現状と課題についても専門家にお話をいただきました。

本年の第12回がん患者大集会は、秋田県にて開催いたします。「がん、新時代を生きる」のテーマの下、秋田県の患者さんとその家族、医療者の皆さんに加え、支援者の方々に日頃の活動・試みを発表していただき、患者・家族・支援者・医療従事者が一緒に生きていく新時代にふさわしい大集会にしたいと思います。

シンポジウムでは、患者と医療者がより良い関係を保ちながら、がん患者が地域の中で安心して暮らせる社会について議論を展開していきたいと思います。

がん患者大集会は、インターネットを利用した中継で、ご意見を基に、アピール文を作成し、厚生労働省や日本医師会に届け、より良いがん対策につなげていきたいと存じます。

第12回がん患者大集会への皆さまのご参加を心よりお待ちいたしております。

昨年11月東京で開催されたがん患者大集会の様子

リレーコラム　がん対策に熱い秋田に

秋田県医師がんネットワーク「あけびの会」代表
藤井 婦美子さん

秋田県医師がんネットワーク「あけびの会」は2003年11月に発足しました。患者会は道の駅とんなか交流館で、毎月第1日曜日に開催されている「あけびの会」の集約された情報交換から孤独感を軽減するとともに病気と闘う、あるいは手術を控えるグループ療法に力を入れています。ピアサポートを基盤とする地域共助する方向へ、市町村が、がん患者支援をする時代に向かうことを願っています。

毎年開催されている「がんサバイバー磨き合登山」では、手術後や抗がん剤治療中の人、家族、仲間と山登りで素晴らしい景色と美味しい空気を堪能しています。今では会員同士の絆は固いと感じる出来事もたくさんあります。

10月9日秋田市の県労働金庫で行われるがん患者大集会を催するがん患者支援機構に当会は団体会員として参加しています。毎回活発な患者の声が集約され厚生労働省、日本医師会などに届き政策立案へ参画している活動に参加するたび感動し、秋田でもぜひと願んでいたところ、今回秋田開催の実行委員長を仰せつかりました。当会員は免疫力アップのために続けてきたさらを舞を披露するため猛練習中です。今年は「がん対策」に熱い秋田を盛り上げていきます。皆さまの参加をお待ちしております。

県内のがん関連情報が分かるPC・スマホサイト　がん情報サポートあきた　検索
秋田魁新報 電子版 で 公開中

次回の掲載は10月30日（日）付の予定です。
企画・制作／秋田魁新報社 営業局

ハガキでご意見・ご要望等をお寄せください。
〒010-8601 秋田市山王臨海町1-1
秋田魁新報社 営業局 営業部内「がんと生きる」係

がんと生きる vol.2

秋田魁新報社
がんの正しい理解促進キャンペーン

第12回 がん患者大集会「がん、新時代を生きる」

主催：特定非営利活動法人がん患者団体支援機構・第12回がん患者大集会実行委員会

第1部：がん患者・家族、医療者、支援者の取り組み紹介
13:00～14:40

（12:50より 乳がんリハビリ・自己検診「のの字の歌体操」）

- 「がんだと言おう！」　武藤優子氏（乳がん体験者）
- 「医師と二人三脚で希少がん治療に向き合う」　近藤 セツ子氏（胸腺腫・胸腺がん患者会 ふたつば代表）
- 「夫婦で歩み、夫婦で決意」　安岡 重江氏＆明雄氏（がん患者と家族のリンクカフェ「あなたのままで」代表）
- 「Sm4o（すみよ）の会と歩んで11年」　片寄 春久氏（市立秋田総合病院 乳腺・内分泌外科科長）
- 「笑ってみませんか！「おらほの暮らしの保健室 in 秋田大学」」　中村 順子氏（秋田大学大学院医学系研究科付属地域包括ケアセンター教授）
- 「医師としてと患者としていのちに向き合う」　中村 正明氏（雄勝中央病院院長）

第2部：シンポジウム「がん、新時代を生きる」
14:50～15:40

登壇者
柴田 浩行氏（秋田大学大学院医学系研究科臨床腫瘍学講座教授）
横尻 隆弘氏（秋田県医師会 はしづめクリニック院長）
巻地 宮貴子氏（秋田県看護協会 訪看ステーションあきた訪問看護部長）
藤井 婦美子氏（秋田県医師がんネットワーク「あけびの会」代表）
小坂 和子氏（秋田・こどもネットワーク会長・講演）
丹藤 喜治氏（厚生労働省 がん・疾病対策課 がん対策推進官）
コーディネーター　町永俊雄氏（福祉ジャーナリスト）

第3部：社会者との意見交換＆アピール
（厚生労働省、日本医師会等へ）16:00 終了

【開催日時】2016年10月9日（日）
開場：12時30分　開始：13時　終了：16時（予定）
【開催場所】メイン会場（秋田）
秋田県労働会館 けやきシアター（定員750人）
（秋田市山王中島町1-2）
①各地がん患者サロン等のサテライト会場へ参加
②インターネット放送・ソーシャルネットワークを利用した個人視聴（スマートフォン視聴可）
【参加対象】がん患者・体験者・家族・医療・福祉関係者・支援者・がん医療に関心のある方
【参加費】無料
【お申し込み】
メール：info@canps.jp　FAX：018-834-5867
TEL：090-5233-4281（藤井）
090-5188-3902（三浦）
郵送：〒010-0825 秋田市旭北錦田31-15
「第12回がん患者大集会」秋田実行委員会事務局
三浦宏子
※詳細は特定非営利活動法人がん患者団体支援機構ホームページでご確認ください。
http://canps.jp

秋田銀行

明日のくらし、ささえあう CO・OP共済
生活協同組合コープあきた
秋田市土崎港北6-1-30 TEL.018-846-2515

社団医療法人 啓愛会 孝仁病院
PETがん検診
0120-489-362
〒020-0052 岩手県盛岡市中太田泉田28

アクサ生命保険株式会社
redefining / standards

あなたの大切な人のためにも「がん検診」を
がん検診促進キャンペーン展開中
スイッチ！5ch
AAB 秋田朝日放送

秋田県がん診療連携推進病院
いつでも どこでも だれでも
社会医療法人 明和会 中通総合病院
秋田市南通みずの町3-15 TEL.018-833-1122

内科 消化器内科 濱島医院
秋田市保戸野すわ町15-20 TEL.018-823-5252

小川内科医院
秋田市中通三丁目3-55 TEL.018-832-4013

乳腺外科・内科 はしづめクリニック
秋田市山王新町19-27 ☎018-883-3388

あきたレディースクリニック安田
院長 安田 師仁（日本産科婦人科学会認定専門医 母体保護法指定医）
秋田市土崎港中央五丁目3-37 TEL.018-857-4055
PCサイト http://yasuda-clc.jp 携帯サイト http://wclc.jp/sicy

いつでも そばに
公益社団法人 秋田県理学療法士会
会長 菅原 康彦
事務局／秋田市大町1丁目2-40 TEL・FAX.018-867-1804
ホームページ http://www.pt-akita.org

くすり・処方せん 池田薬局
株式会社 池田
本社 由利本荘市川口字八幡前261番地 ☎0184-22-2228（代）

株式会社 秋田病理組織細胞診研究センター
AKH
秋田市雄和椿川字奥棚田12-8 TEL.018-853-5806

味どころくの一。かくし味。
東北醤油株式会社
大仙市神宮寺字本郷野102 TEL.0187-72-2020

佐野薬局
秋田市保戸野通町3-31 TEL.018-823-8355

一般社団法人 生命保険協会 秋田県協会
http://www.seiho.or.jp/

"大切な人を想う" のいちばん近くで。
NISSAY 日本生命

朝日生命保険相互会社 秋田支社
秋田市大町3丁目4-9 朝日生命秋田ビル4階
TEL.018-862-4572　FAX.018-865-5439

「生きる」を選ぶ。Aflac 生きるための がん保険 Days
アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）秋田支社
秋田市旭北錦町5-50 シティビル秋田3F
TEL.018-863-9723　FAX.018-863-9448

信頼の医療機器 株式会社 秋田医科器械店
本社 秋田市仁井田字中谷地130-2　☎018-839-3551代
横手(営) 横手市赤坂字大堀向2-4　☎0182-32-6311代
能代(営) 能代市厚金字上新谷地189番　☎0185-52-0024
仙北センター 仙北市角館町本町1番33号　☎018-839-5539

秋田ビューホテル

秋田基準寝具株式会社
本社：秋田市八橋字イサノ6-1　TEL 018-862-4525

ATEC 株式会社 アテック
秋田市八橋イサノ二丁目15-25
TEL.018-862-1720 代

奥羽電気設備株式会社
本社／大館市泉町6-22　TEL.0186-42-1870

秋田活版印刷株式会社
本社 〒011-0901 秋田県秋田市中内字三千刈110-1
TEL.018-866-0500(代) FAX.018-866-0505
東京営業所 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-1-1サンシャイン60 28F
TEL.03-5927-8101　FAX.03-5927-8102
70th 創業70年 ありがとうございます
B1部大型ポスター から 壁掛にやさしいカレンダーの印刷・製本まで、幅広い印刷にお応えします。
http://www.kappan.co.jp/

もっと、秋田が好きになる。
ABS秋田放送
本社／秋田市山王7-9-42
TEL 018-824-8533（総務部）

AKT 秋田テレビ
本社／秋田市八橋本町3丁目2-14
TEL.018-866-6121
URL http://www.akt.co.jp/

AFM エフエム秋田
本社／秋田市八橋本町3-7-10　TEL.018(824)1155
URL http://www.fmakita.co.jp

株式会社 秋田ステーション
The Human Technology & Performance
秋田市土崎相染町字中谷地67-1　TEL.018-845-2266

大きなネットで大きな効果、折込広告のことなら
株式会社 SIC さきがけ折込センター
秋田市御所野下堤二丁目1-6 TEL.018-889-8230
sakigake@sic-akita.co.jp

ご協賛の一部を、認定NPO法人あきたスポッチファンドを通して県内の「がん対策に携わる 各種団体の活動」に助成いたします

（広告は順不同）